

日蓮大聖人御書全集

じぶぼうごへんじ

治部房御返事

新版
2027
〜
2029

治部房御返事

弘安 4 年 (' 81) 8 月 22 日 60 歳 治部房

白米一斗・茗荷の子・はじかみ一つと、送り給び候い畢

わんぬ。

わんぬ。

仏には、春の花、秋の紅葉、夏の清水、冬の雪を進らせ

て候人々、皆仏に成らせ給う。いわんや、上一人は寿命

を持たせ給い、下万民は珠よりも重くし候 稻米を法華経

にまいらせ給う人、いかでか仏に成らざるべき。

その上、世間に人の大事とすることは、主君と父母との仰

せなり。父母の仰せを背けば不孝の罪に墮ちて天に捨てら

ふぼ おお そむ ふこう つみ お てん す
こくしゅ おお もち いちよく もの な いのち 召

れ、国主の仰せを用いざれば違勅の者と成つて命をめさる。

われ か こ おんのんごう ぼだい 願

されば、我らは過去遠々劫より菩提をねがいしに、あるい

くに 捨 さいし み

は国をすて、あるいは妻子をすて、あるいは身をすてなん

ごしようぼだい ほとけ 成 ちか

どして、後生菩提をねがいしほどに、すでに仏になり近づ

とき いちじょうみようほうれんげきょう もう おんきよう あ

きし時は、一乗妙法蓮華経と申す御経に値いまいらせ

そうちら とき だいろくてん まおう もう さんがい しゆ

候いし時は、第六天の魔王と申す三界の主おわします。「す

者 ほとけ 成 ふた とが いち

でにこのもの仏にならんとするに二つの失あり。一には、

さんがい い わ しょじゆう ぎ 離

このもの三界を出ずるならば、我が所従の義をはなれなん。

に ほとけ 成 ふぼ きようだい

二には、このもの仏になるならば、このものが父母・兄弟

とう しやばせかい ひ こ み

等もまた、娑婆世界を引つ越しなん。いかがせん」とて、身

しゆじゆ わ ふぼ 付 こくしゆ

を種々に分けて、あるいは父母につき、あるいは国主につ

たつと そう あく すす

き、あるいは貴き僧となり、あるいは悪を勧め、あるいは

脅 賺 ごうそう だいそう

おどし、あるいはすかし、あるいは高僧、あるいは大僧、

ちしや じさいとう な けごん

あるいは智者、あるいは持斎等に成つて、あるいは華嚴、

あごん ねんぶつ しんごんとう

あるいは阿含、あるいは念仏、あるいは真言等をもつて

ほけきよう 勸 替 ほとけ 謀 そうろう

法華經にすすめかえて、仏になさじとたばかり候なり。

ほけきようだいご まき まつぼう い だいきじん だいいち

法華經第五の卷には、「末法に入つては大鬼神、第一には

こくおう だいじん ばんみん み い ほけきよう ぎようじゃ

国王・大臣・万民の身に入つて、法華経の行者を、あるい

の う き

は罵り、あるいは打ち切つて、それに叶わずんば、無量無辺

むりようむへん

そう げん

いつさいきよう

ひ

賺

かな

の僧と現じて、一切経を引いてすかすべし。それに叶わず

にひやくごじっかい

さんぜん

いぎ

そな

だいそう

な

んば、二百五十戒・三千の威儀を備えたる大僧と成つて、

こくしゆ

こくぼ

誑

流

国主をすかし、国母をたばらかして、あるいはながし、あ

殺

と

そうろう

るいはころしなんどすべし」と説かれて候。

しち

まき

ふきようぼん

し

まき

ほっしほん

また七の巻の不軽品、また四の巻の法師品、あるいはま

に まき ひゆほん

ねはんぎようしじっかん

しゆぎきよう

た二の巻の譬喩品、あるいは涅槃経四十卷、あるいは守護経

とう いさい

み

そうろう

とうじ

せけん

すこ

違

そうら

等に委細に見えて候が、当時の世間に少しもたがい候わ

ぬ上、駿河国賀島莊は殊に目の前に身にあたらせ給いて覺うえ するがのくにかじまのしょう こと め まえ み 当 たま おぼ

えさせ給い 候らん。他事には似候わず。父母・国主等のたま そうろう たじ にそうら ふぼ こくしゆとう

法華経を御制止 候を用い 候わねば、還つて父母の孝養とほけきよう ごせいし そうろう もち そうら かえ ふぼ こうよう

なり、国主の祈りとなり 候ぞ。こくしゆ いの そうろう

その上、日本国はいみじき国にて 候。神を敬い、仏をうえ にほんこく くに そうろう かみ うやま ほとけ

崇むる国なり。しかれども、日蓮が法華経を弘通し 候を、あが くに にちれん ほけきよう ぐつう そうろう

上一人より下万民に至るまで御あだみ 候故に、一切の神かみいちにん しもばんみん いた おん 怨 そうろうゆえ いっさい かみ

を敬い一切の仏を御供養 候えども、その功德還つて大悪うやま いっさい ほとけ ごくようそうら くどくかえ だいあく

となり、やいと灸の還つて悪瘡となるがごとく、灸の還つてかえ かくそう あくそう 灸 かくすり かい

どく 一切の仏神等に祈り給う御祈りは、還つ

毒となるがごとし。一切の仏神等に祈り給う御祈りは、還つ

とが な くにすで たこく たから な そうろう おお

て科と成つて、この国既に他国の財と成り候。また大い

ひとびと みな へいけ ほろ よう ひやくせんまんおく過 おんなげ

なる人々、皆、平家の亡びしが様に百千万億すぎでの御歎

由 か ひとびと もう き そうら お

きたるべきよし、兼ねてより人々に申し聞かせ候い畢わん

ぬ。

ほけきよう 怨 ひと とが ぶんざい かえ

また法華経をあだむ人の科にあたる分齊をもつて、還つ

くどく ぶんざい し たも れい ふぼ ころ

て功德となる分齊をも知らせ給うべし。例せば、父母を殺す

ひと だいぜんこん てん たも

人は、いかなる大善根をなせども、天これを受け給うこと

ほけきよう 敵 ひと ふぼ

なし。また法華経のかたきとなる人をば、父母なれども殺し

ころ

だいざいかえ

だいぜんこん

そうろう

じっぽうさんぜ

ぬれば、大罪還つて大善根となり候。たとい十方三世の

しよぶつ

おんてき

ほけきよう

いっく

しん

しよぶつす

諸仏の怨敵なれども、法華経の一句を信じぬれば、諸仏捨て

たも

すい

たま

おんつか

急

給うことなし。これをもつて推せさせ給え。御使いいそぎ

そうら

くわ

もう

そうろう

もう

そうろう

候えば、委しくは申さず候。またまた申すべく候。

きようきようきんげん

恐々謹言。

はちがつにじゅうににち

八月二十二日

にちれん

かおう

日蓮

花押

じぶぼうごへんじ

治部房御返事